

調査レポート

沖縄県内における 2026 年プロ野球春季キャンプの経済効果 ～ 経済効果は過去 2 番目に高い 222 億 2,100 万円～

(要 旨)

- ・ 2026 年の沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は、過去 2 番目に高い 222 億 2,100 万円となり、前年の 224 億 2,100 万円を下回った。
- ・ 延べ観客数は約 43 万 2,000 人となり、前年 (43 万 9,000 人) から 1.6%減となったものの、プロ野球の人気上昇などを背景に県外からの観客数は増加し、過去最高の約 12 万 8,000 人と推測された。各キャンプ地は連日多くの観客やファンで賑わいをみせた。
- ・ プロ野球春季キャンプは、観光のオフシーズンに多くの観客や関係者が来沖し消費活動を行うことから「観光消費額の平準化」に寄与し、県経済に与えるインパクトは大きい。
- ・ 経済効果の拡大を目指すにあたり、解決すべき課題として交通問題が挙げられる。車での移動を前提とした交通対策など、観客の利便性を確保しつつ交通需要をコントロールできる仕組みの構築が必要であろう。
- ・ 継続的な実施に向け、球場などのハード整備に加え、地域内で消費を生み出すソフト面の取組みを一体的に進めることも重要である。来場者の滞在時間を延ばす工夫や、会場を起点に回遊する環境を整えることが求められる。地域内で生まれた消費が新たな設備投資や受入環境の充実につながる好循環を形成することで、継続的なキャンプ誘致と地域経済の発展が期待される。
- ・ プロ野球春季キャンプにおける誘客は、沖縄観光の新たな客層の獲得及びリピーター創出につながる。今後も「スポーツアイランド沖縄」としての価値を維持・発展させていくためには、県や自治体、球団、事業者などが一体となり、プロ野球キャンプの受入にとどまらず、地域全体の魅力向上や経済活性化につながる取組みを継続していくことが重要である。
- ・ 今後もプロ野球キャンプなどのスポーツツーリズムを、県内の観光産業を牽引する成長コンテンツとしてさらに発展させていくことが期待される。

(目 次)

1. 2026 年のプロ野球春季キャンプの概要	
(1) キャンプ実施球団の状況.....	1
(2) キャンプ参加者・観客の人数.....	2
2. 経済効果の試算について	
(1) 春季キャンプの関連支出額（直接支出額）	4
(2) 春季キャンプの沖縄県内における経済効果.....	4
(3) 産業別の経済効果.....	5
3. プロ野球春季キャンプ経済効果の拡大に向けた課題と展望	
(1) 交通問題の解消.....	7
(2) 野球場を核とした地域全体の賑わいと循環の創出.....	8
4. 最後に.....	9

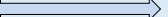
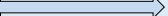
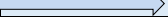
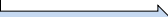
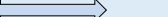
1. 2026 年の春季キャンプの概要

(1) キャンプ実施球団の状況

2026 年 2 月に沖縄県内で春季キャンプを実施した国内プロ野球球団は、12 球団中 9 球団となった。1 軍キャンプは前年同様に 9 球団であったが、ロッテは新たに宮崎県でのキャンプを開催し、県内でのキャンプ日数は半減した。2 軍キャンプは、前年に宮崎県へキャンプ地を変更したロッテが石垣島でキャンプを再開したこと、また、嘉手納野球場の改修によりキャンプ地を変更していた DeNA が 4 年ぶりに嘉手納町で再開したことから、球団数は前年より 2 球団多い 6 球団となった（図表 1）。

キャンプ期間中は、昨季のセ・リーグ王者である阪神や、池山隆寛新監督を迎えたヤクルト、相川亮二新監督が率いる DeNA、サブロー新監督の下で始動したロッテのキャンプ実施が注目を集めた。選手では、巨人にドラフト入団した山城京平選手、小濱佑斗選手のプロ初キャンプが話題となるなど、県出身選手の活躍にも関心が集まった。

（図表 1）沖縄県内における 2026 年春季キャンプの実施状況

球団名 (略称)	キャンプ地	開催球場	キャンプ期間	
			2月	日程
北海道日本ハムファイターズ (日本ハム)	名護市	Enagicスタジアム名護		2/1 ~ 2/25
	(二軍) 国頭村	かいぎんスタジアム国頭		2/1 ~ 2/23
広島東洋カープ (広島)	沖縄市	コザしんきんスタジアム		2/13 ~ 2/25
中日ドラゴンズ (中日)	北谷町	Agreスタジアム北谷		2/1 ~ 2/24
	(二軍) 読谷村	オキハム読谷平和の森球場		2/1 ~ 2/24
横浜DeNAベイスターズ (DeNA)	宜野湾市	ユニオンですからスタジアム宜野湾		2/1 ~ 2/23
	(二軍) 嘉手納町	嘉手納野球場		2/1 ~ 2/23
東京ヤクルトスワローズ (ヤクルト)	浦添市	ANA BALL PARK 浦添		2/1 ~ 2/26
阪神タイガース (阪神)	宜野座村	バイトするならエントリー宜野座スタジアム		2/1 ~ 2/25
	(二軍) うるま市	うるま市具志川野球場		2/1 ~ 2/25
東北楽天ゴールデンイーグルス (楽天)	金武町	金武町ベースボールスタジアム		2/1 ~ 2/23
	(二軍) 久米島町	久米島野球場		2/1 ~ 2/12
千葉ロッテマリーンズ (ロッテ)	糸満市	糸満市西崎総合運動公園		2/13 ~ 2/23
	(二軍) 石垣市	ロートスタジアム石垣		2/1 ~ 2/12
読売ジャイアンツ (巨人)	那覇市	沖縄セルラースタジアム那覇		2/14 ~ 3/1

※球団は沖縄県でのキャンプを始めた年の順で掲載

(出所) 球団 HP およびスポーツ紙報道よりりゅうぎん総合研究所作成

(2) キャンプ参加者・観客の人数

① 選手・球団関係者・報道陣

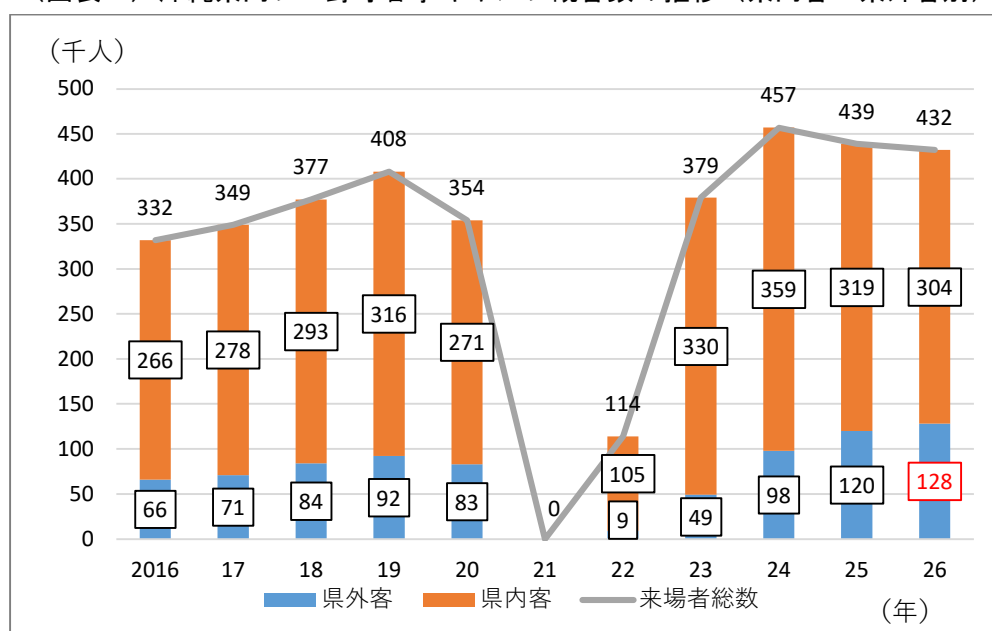
キャンプ参加人数は、選手（1～2軍計）・球団関係者は全9球団合計で約1,300人（前年比190人増）となった。昨年にはなかったロッテとDeNAの2軍キャンプが沖縄県内にて開催されたことなどが影響したものと考えられる。また、報道関係者や解説者は約1,700人（前年比200人増）となった。プロ野球人気の高まりなどを背景に、メディア関係者が増加したと考えられる。

② 観客数

キャンプ期間中の延べ観客数は、約43万2,000人（オープン戦含む）となった。前年と比較して1軍のキャンプ日数減少などが影響したとみられ、前年（約43万9,000人）から7,000人の減少となった（図表2）。延べ観客数のうち、県外からの観客数は約12万8,000人と推測され、前年（約12万人）を上回り過去最高となった。（一社）日本野球機構によるとプロ野球公式戦の入場者数はコロナ禍を除いて増加傾向にあるなど、プロ野球人気の高まりが背景にあると考えられる（図表3）。

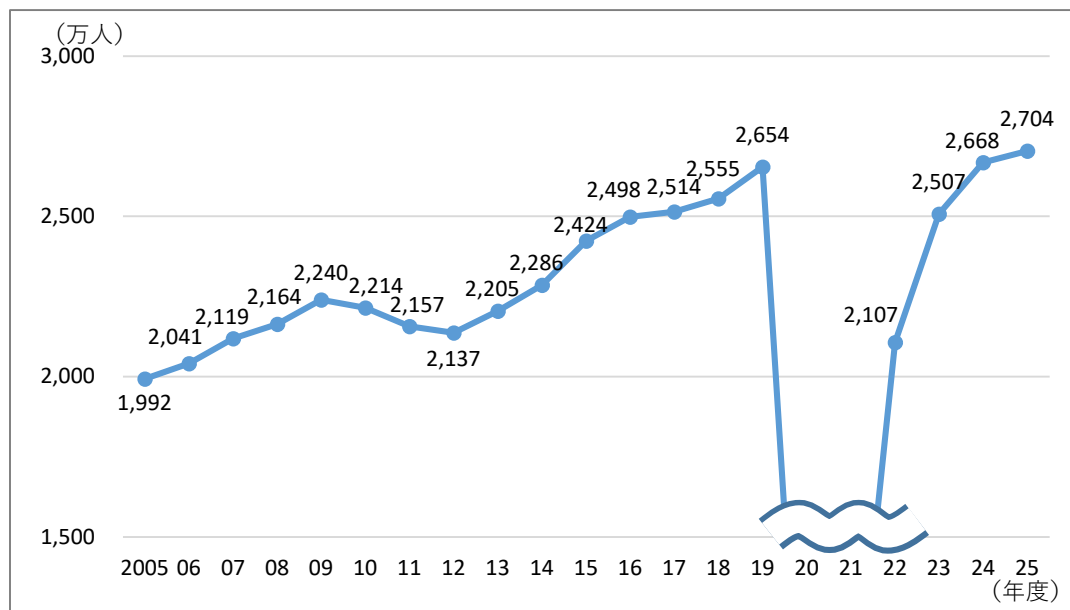
各キャンプ地では、練習見学や試合観戦のほか、サイン会などのファンとの交流イベントや飲食ブースの出店などが開催され、多くの観客で活気に包まれた（写真1、2）。また一部の球団では、地元アーティストによるライブや選手によるトークショーを開催するなど、キャンプ観戦以外にも楽しめる企画を展開した。さらに、協力会によるキャンプ地の情報発信も積極的に行われており、こうした取組みも県外客の増加を後押ししたとみられる。

（図表2）沖縄県内プロ野球春季キャンプ観客数の推移（県内客・県外客別）



（出所）りゅうぎん総合研究所

(図表 3) プロ野球公式戦入場者数の推移 (セ・リーグ、パ・リーグ合計)



(出所) 一般社団法人日本野球機構「統計データ」よりりゅうぎん総合研究所作成

(写真 1) サイン対応する選手



(写真 2) 飲食ブースを利用する観客



(出所) 写真 1 は日ハム名護キャンプ、写真 2 は阪神宜野座キャンプにて筆者撮影 (2026 年 2 月)

2. 経済効果の試算について

(1) 春季キャンプの関連支出額（直接支出額）

キャンプでは、球団関係者のほかに県外からの観客が県内で宿泊、飲食、娯楽レジャー、土産品・グッズ購入などに支出するほか、多くの県民がキャンプ地へ出かけて飲食や土産品・グッズを購入する。また、キャンプ受け入れ地の自治体による練習施設等のインフラ整備や、協力会によるキャンプ応援のための関連経費の支出などがあり、これらを合計したものが直接支出額となる。

この直接支出額を推計すると、総額で 156 億 7,800 万円となり、前年（161 億 700 万円）を 4 億 2,900 万円下回った（図表 4）。

試算結果の内訳をみると、宿泊費が 51 億 2,200 万円で最も多く、次いで飲食費が 33 億 1,400 万円、土産品・グッズ購入が 28 億 900 万円などとなった。県外からの観客数が増加したことに伴い宿泊費や飲食費が上昇したことなどから、多くの項目で増加となった。一方、練習施設等の整備費は、前年に大幅に増加した反動減で、12 億 4,100 万円減少した。

（図表 4）2026 年プロ野球春季キャンプ関連支出額（直接支出額）

支 出 項 目	支出額 (百万円)	前年差 (百万円)
宿 泊 費	5,122	251
飲 食 費	3,314	206
土 産 品 ・ グ ッ ズ 購 入	2,809	348
交 通 費	1,425	5
娯 楽 ・ レ ジ ャ ー 費	1,166	15
練 習 施 設 等 の 整 備 費	939	▲ 1,241
ア ル バ イ ト へ の 支 払 い	76	3
ク リ ー ニ ン グ 代	87	6
施 設 等 使 用 料	53	▲ 9
そ の 他	687	▲ 13
合 計	15,678	▲ 429

（出所）りゅうぎん総合研究所

(2) 春季キャンプの沖縄県内における経済効果

まず、県内の産業全体の自給率は 100%ではないため、(1)で求めた直接支出額 156 億 7,800 万円に自給率を掛けると県内で供給された分である 129 億 8,600 万円が求められ、これが直接効果となる（図表 5）。

次に、直接効果である宿泊費、飲食費、交通費、施設整備費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービスなどを提供している産業の

売上増加へと波及していく。これを1次間接効果といい、これが58億4,900万円となる。さらに、直接効果と1次間接効果で生じた各産業における雇用者の所得増加は、これら雇用者の消費支出を増加させ、関連する各産業の生産を誘発していく。これを2次間接効果といい、これが33億8,700万円となる。

これらの直接効果、1次間接効果、2次間接効果を合わせた金額が222億2,100万円となり、これがいわゆる県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果となる。

また、これらの効果のうち、賃金などの雇用者所得や企業の営業余剰などに当たる粗付加価値額が114億800万円となり、この中で雇用者所得が65億5,700万円となる。

今年の経済効果は、練習施設等の整備費の減少などが影響し、前年の経済効果（224億2,100万円）を2億円下回った。

（図表5） 2026年プロ野球春季キャンプ経済効果の試算結果

	【単位:百万円】			
	経済効果 (生産誘発額)	粗付加価値 誘発額		
			雇用者所得 誘発額	営業余剰 誘発額
直 接 効 果	12,986	5,969	4,083	207
1 次 間 接 効 果	5,849	3,409	1,541	802
2 次 間 接 効 果	3,387	2,031	934	469
総合効果（経済効果）	22,221	11,408	6,557	1,478
直 接 支 出 額	15,678	－		
波 及 効 果	1.4（倍）…(総合効果/直接支出額)			

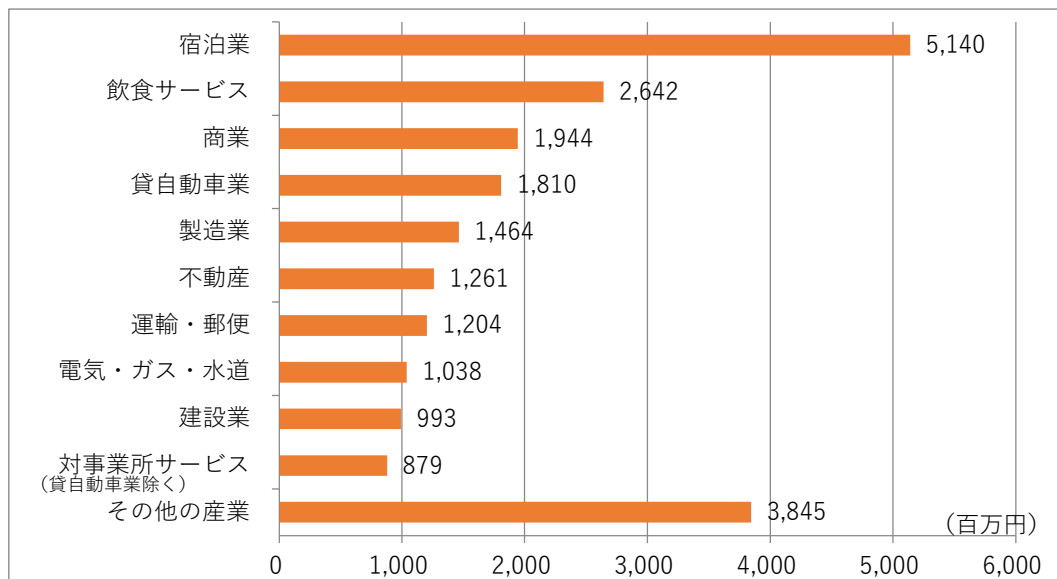
- （注） 1.直接効果は直接の支出による効果（自給率が100%でなければ移輸入の分、直接支出額を下回る）。
 2.1次間接効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。
 3.2次間接効果は、直接効果、1次間接効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。
 4.生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。
 5.付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値（雇用者所得や営業余剰など）。
 6.端数処理により合計は合わないことがある。

（出所） りゅうぎん総合研究所

（3） 産業別の経済効果

今年の経済効果である222億2,100万円を産業別にみると、宿泊業が51億4,000万円と最も大きく、次いで飲食サービス（飲食店など）が26億4,200万円、商業が19億4,400万円、貸自動車業が18億1,000万円、製造業が14億6,400万円などの順となった（図表6）。

(図表 6) 2026 年プロ野球春季キャンプにおける産業別経済効果

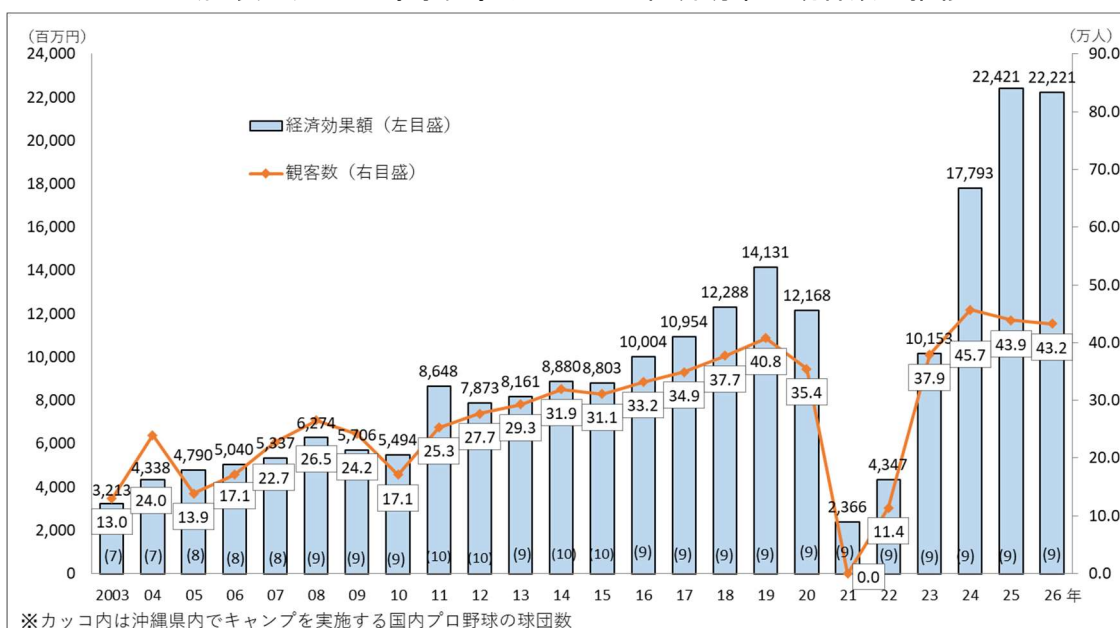


(出所) りゅうぎん総合研究所

3. プロ野球春季キャンプ経済効果の拡大に向けた課題と展望

2026 年の県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は、前年比 0.9%減少したものの、過去 2 番目の大きさとなった (図表 7)。2 球団が県内でのキャンプを再開したことなどにより、球団関係者や県外からの観客数が増加したものの、前年に施設整備費が大幅に増加した反動減がみられ、経済効果は前年を下回った。

(図表 7) プロ野球春季キャンプの経済効果と観客数の推移



(出所) りゅうぎん総合研究所

プロ野球春季キャンプは、観光閑散期である2月に多くの観客や関係者が来沖し消費活動を行うことから、県経済に与えるインパクトは大きい。ここでさらなる経済効果の拡大を目指すにあたり、今後解決すべき課題として、①交通問題、②地域全体の賑わいと循環の創出が挙げられる。本項では、これらの課題について現状を整理するとともに、必要な取組みについて考察する（図表8）。

（図表8）プロ野球春季キャンプの経済効果拡大に向けた課題と施策案

①交通問題	車での移動を前提とした交通動線・駐車場運営など、来場者の利便性を確保しつつ交通需要を調整する
②地域全体の賑わいと循環の創出	ハード面：施設の機能強化等、更なるレベル向上を図る ソフト面：観客の滞在時間を延ばし、消費を拡大させる 地域内で消費できる環境を整備する
⇒交通環境や受入体制を充実させ、キャンプ集積地としての魅力を高めるとともに、地域経済の好循環を形成することが重要	

（出所）りゅうぎん総合研究所

（1）交通問題

経済効果の拡大に向けては、まず交通面の課題解決が重要である。

沖縄県が発行する冊子「BASEBALL CAMP in OKINAWA 2026」（以下、ガイドブック）では、公共交通機関やレンタカーを利用する場合のそれぞれの所要時間や最寄りバス停・駐車場などの情報を掲載し、各キャンプ地へのおすすめのアクセス方法をわかりやすく紹介している。また、一部の市町村では1軍と2軍のキャンプ地を行き来できるシャトルバスの運行が実施されている。

しかし、県内では都市圏を除き公共交通機関の便数が限られる地域が多く、観光やキャンプ地への移動は自家用車やレンタカーが主要な交通手段となっている。そのため、車での移動を前提とした交通動線や駐車場運営など、実態に即した交通対策が求められるが、現状は駐車場の不足や駐車場から会場までの距離などが課題となっている。駐車場を探す時間や移動距離の長さは、満足度の低下につながりかねない。また、違法駐車と思われる車両も一部見られ、こうした状況や周辺道路の渋滞は地域住民の日常生活にも影響を及ぼす可能性があり、改善が必要である。

県内のスポーツイベントや観光地にならない、会場最寄りの駐車場と遠隔地の駐車場料金に差を設け、遠隔地からはシャトルバスを運行するなど、観客の利便性を確保しつつ交通需要を適切にコントロールできる仕組みの構築などが必要であろう。

また、いくつかのキャンプ地では公共交通機関のみでのアクセスが難しいことも課題である。スポーツツーリズムのみならず、交通面の課題は沖縄観光全体において対策が急務であり、公共交通ネットワークの強化についても検討を進めることが重要である。

（２） 地域全体の賑わいと循環の創出

県内キャンプの長期的な継続実施に向け、球団や観客の双方に選ばれ続ける受入態勢を整えることも重要である。そのためには、球場などのハード整備に加え、地域内で消費を生み出すソフト面の取組みを一体的に進めることが求められる。

ハード面において、これまで各自治体や協力会では、球団側の要望に対し柔軟かつスピード感を持って対応してきた。近年では、嘉手納野球場で大規模な建て替え工事が行われ、沖縄本島初の全面人工芝を擁した球場施設として 2025 年にオープンした。他にも糸満市が屋内運動場を新設したり、うるま市がサブグラウンドを全面改修したりするなど、よりレベルの高い練習環境の充実に努めており、これからもキャンプ地として選ばれるために、こうした取組みを継続することは重要であろう。

また、ハード面の整備を一時的な効果にとどめず、継続的な地域の賑わいの創出につなげるために、観客の滞在時間を延ばし、地域内における消費を拡大させるための取組みも重要である。

例えば宮崎県では、空港にキャンプの特設エリアを設置し貴重な展示品を配置することで、プロ野球ファンにとって魅力的なスポットとなっていた（写真 3）。こうした取組みは、県全体でキャンプを歓迎するムードの醸成にもつながる。また、キャンプ地では飲食や物販ブースを多数出店し、屋根付きの休憩所を整備するなど、観客がゆったりと滞在できるお祭り会場のような賑わいが生まれていた。こうした取組みは、コアな球団ファンだけでなくライトなファンや地域住民も気軽に訪れやすく、滞在時間の延長や地域内消費の拡大に寄与している。

県内でも、キャンプ会場での飲食店等の出店に加え、県が発行するガイドブックで周辺の飲食店や観光施設を紹介するとともに、キャンプ地やそれらを巡るスタンプラリーを実施するなど、キャンプ観戦と併せて沖縄観光を楽しめる仕組みが整えられている。また、県産品や県内企業と連携した限定グッズの販売など、沖縄ならではの魅力を生かした商品開発も進められている（写真 4）。これらは、来訪記念となるほか購入者による SNS での情報発信も期待されることから継続した商品展開に期待したい。

さらなる経済効果の拡大に向けて、地域内で消費につなげる環境整備も欠かせない。宿泊施設や飲食店等の立地を促すなど、会場を起点に回遊する環境を充実させることが求められる。また、その環境整備によりキャンプ期間以外にもスポーツイベントや観光を通じて地域へ人を呼び込むことができれば、年間を通じた来訪者数の拡大にもつながる。

このように、ハード面の整備とソフト面の充実を一体的に進め、地域内で生まれた消費が新たな設備投資や受入環境の充実につながる好循環を形成することが重要である。球場を単なるキャンプ会場としてではなく、地域の魅力やにぎわいを生み出す拠点として活用していくことが、魅力的な地域づくりにつながり、継続的なキャンプ誘致とそれに伴う地域経済の発展が期待される。

(写真3) 空港内のキャンプ特設エリア(宮崎) (写真4) 沖縄県内企業とのコラボグッズ



(出所) 写真3は宮崎ブーゲンビリア空港、写真4は巨人那覇キャンプにて筆者撮影(2026年2月)

4. 最後に

観光の閑散期に開催されるプロ野球春季キャンプは「観光消費額の平準化」に寄与する重要な観光コンテンツである。先述した課題に向き合い新たな施策を打ち出していくことは、プロ野球春季キャンプのイベントとしての魅力が向上するだけでなく、沖縄観光における新たな客層の獲得及びリピーター創出へとつながる。

沖縄県は温暖な気候を背景に、これまでスポーツキャンプの名所として発展するとともに、「スポーツアイランド沖縄」としてのブランドを築いてきた。しかし近年では、他県においても施設整備や受入環境の充実が進んでいるほか、温暖化の影響などもあり、沖縄以外での春季キャンプも実施されている。

2026年に宮崎県で開催された侍ジャパン宮崎春季キャンプでは、約20万人の観客が来場し、日本代表選手を一目見ようと全国から多くのファンが訪れた。日本代表のキャンプは開催機会が限られることから、その集客力や情報発信力は極めて大きい。各受入自治体の横連携、公民の連携強化によって、今後もキャンプ集積地としての付加価値向上を図り、将来的には侍ジャパンなどトップレベルのキャンプを誘致できる環境づくりを進めることも期待される。

県内では、長年にわたり実施されているプロ野球キャンプをはじめ、甲子園での高校球児の活躍やジャパンウィンターリーグの開催などを通じて、野球を軸とした地域の情報発信が進んでおり、スポーツを活用した地域ブランドも形成されている。今後も「スポーツアイランド沖縄」としての価値を維持・発展させていくためには、県や自治体、球団、事業者などが一体となり、プロ野球キャンプの受入にとどまらず、地域全体の魅力向上や経済活性化につながる取組みを継続していくことが重要である。これらの取組みを通じて、プロ野球キャンプなどのスポーツツーリズムを、県内の観光産業を牽引する成長コンテンツとしてさらに発展させていくことが期待される。

(りゅうぎん総合研究所 研究員 中地 紀咲)

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況(1979年～2008年)

暦 年	日本ハム	広島	中日	DeNA	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人	ソフトバンク	西武
1979	(投手陣) 名護市	◎						(○)				
80		◎						(○)				
81	(一軍) 名護市 ○									◎		
82		(一軍) 沖縄市	○									◎
83			(一軍) 石垣市							○		◎
84	(一軍) 名護市 (二軍) 宜野座村	◎			○							
85	(一軍のみ) 名護市		(投手陣) 具志川市				◎					○
86		○										◎
87			(一軍) 石川市 具志川市	(一軍) 宜野湾市						○		◎
88			○									◎
89			(一軍) 石川市 (二軍) 具志川市		(投手陣) 糸満市			(○)	(投手陣) 那覇市	◎		
90					(一軍) 糸満市					○	(一軍) 読谷村 (二軍) 嘉手納町	◎
91		○			(一軍) 糸満市 (二軍) 那覇市							◎
92						○						◎
93					(一、二軍) 平良市 糸満市	◎						○
94					(一、二軍) 平良市、糸満市、城辺町					◎		○
95					(一軍) 平良市 (二軍) 城辺町 ○	◎						
96	(一軍) 名護市 (二軍) 宜野座村		(一軍) 北谷町 (二軍) うるま市	(一軍) 宜野湾市 (二軍) 嘉手納町	◎					○		
97			(一軍) 石川市 (二軍) 読谷村			◎						○
98				◎								○
99			○								◎	
2000						(一軍) 浦添市				◎	○	
01						◎		(○)				
02										◎		○
03	(一軍) 名護市 (二軍) 東風平町						(一軍) 宜野座村 ○				◎	
04			(一、二軍) 北谷町 読谷村 ○		(一軍) 平良市 (二軍) 平良市 城辺町							◎
05			(一軍) 北谷町 (二軍) 読谷村 北谷町		(一軍のみ) 平良市		○	(一、二軍) 久米島町	◎			
06	(一軍) 名護市 (二軍) 八重瀬町 →国頭村 ◎		(一軍) 北谷町 (二軍) 読谷村 ○		(一軍のみ) 宮古島市							
07	(一軍) 名護市 (二軍) 国頭村 ○		◎							○		
08									(一軍のみ) 石垣市	○		◎ ○

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況（2009年～2026年）

暦 年	日本ハム	広島	中日	DeNA	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人	ソフトバンク	西武
9	○				(一、二軍) 宮古島市	(一軍) 浦添市 (二軍) 八重瀬町				◎ ○		
10			○						◎		○	
11			○							(一軍のみ) 那覇市	◎ ○	
12	○									◎ ○		
13						(一軍のみ) 浦添市		◎ ○		○		
14									(一、二軍) 石垣市	○	◎ ○	
15					(二軍のみ) 宮古島市	○					◎ ○	
16	◎ ○	○										
17		○									◎ ○	
18		○						(一軍) 久米島町 一金武町 (二軍) 久米島町		(一、三軍) 那覇市	◎	○
19										○	◎	○
20		(一、二軍) 沖縄市								(一軍のみ) 那覇市 ○	◎ ○	
21		(一軍のみ) 沖縄市			○	◎ ○		(一軍) 金武町 (二軍) うるま市				
22					○ ◎	○			(一軍) 石垣市 →糸満市 (二軍) 石垣市			
23				(一軍のみ) 宜野湾市	○		(一軍) 宜野座村 (二軍) うるま市 ◎ ○	(一軍) 金武町 (二軍) 久米島町				
24				◎						○	○	
25							○		(一軍のみ) 石垣市 →糸満市		○ ◎	
26				(一軍) 宜野湾市 (二軍) 嘉手納町					(一軍) 宮崎県 →糸満市 (二軍) 石垣市 →宮崎県			
一 軍 キャンプ地	名護市	宮崎県/ 沖縄市	北谷町	宜野湾市	宮崎県	浦添市	宜野座村	金武町	宮崎県/ 糸満市	宮崎県/ 那覇市	宮崎県	宮崎県
二 軍 キャンプ地	国頭村	宮崎県	読谷村	嘉手納町	宮崎県	東京都/ 宮崎県	うるま市	久米島町/ 宮崎県	石垣市/ 宮崎県	宮崎県	福岡県	高知県

(出 所) りゅうぎん総合研究所

- (備 考)
1. 太線内のシャドー部分は沖縄県内で春季キャンプを実施。○はリーグ優勝、◎は日本シリーズ制覇。
 2. 楽天の列の(○)は、05年からオリックスと合併した旧・近鉄のリーグ優勝。
 3. 日ハム(1軍)の18年、19年の名護市キャンプは、新球場建築中のためサブグラウンドやブルペンでの練習となる。
 4. 広島(1軍)は、26年2月1日～12日まで宮崎キャンプ、13日～25日まで沖縄キャンプ。
 5. ロッテ(1軍)は、26年2月1日～11日まで宮崎キャンプ、13日～23日まで糸満キャンプ。
 6. 巨人(1軍)は、26年2月1日～12日まで宮崎キャンプ、14日～3月1日まで那覇キャンプ。

【補注2】：本調査で使用した産業連関表について

本件調査では、沖縄県の令和2年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類35部門表をベースにしたが、35部門表ではキャンプにおける主な支出項目である「宿泊業」や「飲食サービス」、「貸自動車業」などの部門が明示されていない。そのため、これらの産業部門については、県が公表した基本分類表（397行×361列）から該当する業種を抽出した。さらに、今回の分析において統合しても不都合がない部門を当社で統合し、本件調査の分析用に組み替えた。

また、産業連関表における各産業部門の自給率は、県内需要（＝県内居住者の需要）

に対する自給率であるため、移輸出（＝非居住者の需要）は対象外となる。このため、統計上移輸出である「県外からの滞在者の支出（＝非居住者の需要）」の経済効果を試算する際にそのままの自給率を用いると不都合が生じる。例えば、宿泊業の自給率は、県内居住者の宿泊需要（県外旅行などを含む）のうち県内宿泊部門を利用した割合を意味するが、県内居住者の場合、県外宿泊の支出額が県内宿泊の支出額より大きい場合、県内宿泊業の自給率は低くなる。しかし、キャンプ関連の宿泊費や飲食費は全て県内で発生するため、こうした支出に対して県内での自給率が明らかに 100%とみられる宿泊業、飲食店などについては自給率を 100%に設定しなおして使用した。

経済波及効果を求める式は以下のとおりである。

$$\begin{aligned}\Delta X_1 &= [I - (I - \widehat{M})A]^{-1}(I - \widehat{M})\Delta F \\ \Delta X_2 &= [I - (I - \widehat{M})A]^{-1}(I - \widehat{M})c_k w \Delta X_1 \\ \Delta X &= \Delta X_1 + \Delta X_2\end{aligned}$$

ΔX_1 : 一次生産誘発額（直接効果＋一次間接効果）

ΔX_2 : 二次生産誘発額（二次間接効果）

ΔX : 総生産誘発額（経済波及効果＝直接効果＋一次間接効果＋二次間接効果）

I : 単位行列

$\widehat{M}$: 移輸入係数（対角行列）

A : 投入係数（行列）

ΔF : 最終需要増加額

c : 民間消費支出構成比

k : 消費転換係数

w : 雇用者所得率